

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 大島支庁徳之島事務所農業普及課

課題名① 地域資源を活用した肉用牛経営の稼ぐ力の向上						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	2	1		・コスト削減の面からも今後益々重要視されると思います。可能なことから取組普及につなげていただきたい。 ・畜産農家の粗飼料コスト圧縮に向けて取組は今後も続けてほしい。ハカマロールについてはどうか。	・次年度も継続してハカマ回収利用について普及計画の畜産課題で取組む計画
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	2	1		・大規模、きび、畜産業農家以外は難しいか。 ・小規模経営者の実証も必要だと思う。 ・さとうきび農家の実証もして欲しいです。	・ハカマ回収後のさとうきびほ場への堆肥還元について、普及計画の畜産課題で取組む。 ・小規模経営者については、モデル組織の利用者に新たに青年農業者も加わっており、利用調査を継続して実施する。 ・さとうきび農家の実証は計画していないが、きび複合農家での堆肥還元実証を複数年で実施する計画で、R8普及計画で計画している。
活動体制・ 活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	2	1		・農地高度利用に関する協議を加速していただきたい。 ・耕種との連携をしっかりとっていただきたい。	・普及計画担い手課題で取組む計画 ・耕種との連携については普及計画畜産課題で取組む。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	2	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	2	1			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	1		・エコハカマ回収時の畑への負荷軽減が必要	・次年度実証で検討したい。
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	1		・中小規模農家へどう広げるか課題 ・除草剤散布(ドローン)が増加する中で、残留農薬の問題が、今後さらに増えると思います。	・中小規模農家については、モデル組織の利用者に新たに青年農業者も加わっており、利用調査を継続して実施し、課題を整理する。 ・きびでの農薬利用の実態について、担当普及員とも連携して把握し、課題の整理を行っていく。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	1	2			

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 大島支庁徳之島事務所農業普及課

課題名① 地域資源を活用した肉用牛経営の稼ぐ力の向上						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	9				
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5	4		・小規模経営者の実証も必要だと思う	・小規模経営者については、モデル組織の利用者に新たに青年農業者も加わっており、利用調査を継続して実施する。
活動体制・ 活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	3	5	1	・現状においてベストを尽くされていると思います	
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	6	2	1		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	5	4			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	7		・エコハカマ回収時の畑への負荷軽減が必要 ・今後の普及活動に期待します	・次年度計画で堆肥還元の実証を開始する計画で、継続する中で、堆肥還元の効果について検討したい。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	4	4	1		
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	4	4	1	・今後の連携に期待します	
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	5			

地域資源を活用した肉用牛経営の稼ぐ力の向上

大島支庁徳之島事務所農業普及課
技術普及係
畜産 西村 直人

1

現状1 繁殖雌牛基盤の推移

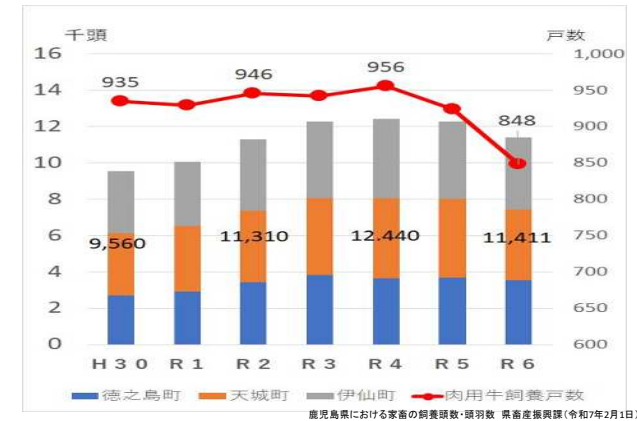


図 繁殖雌牛頭数と飼養戸数の推移

2

現状2 飼料生産基盤の推移

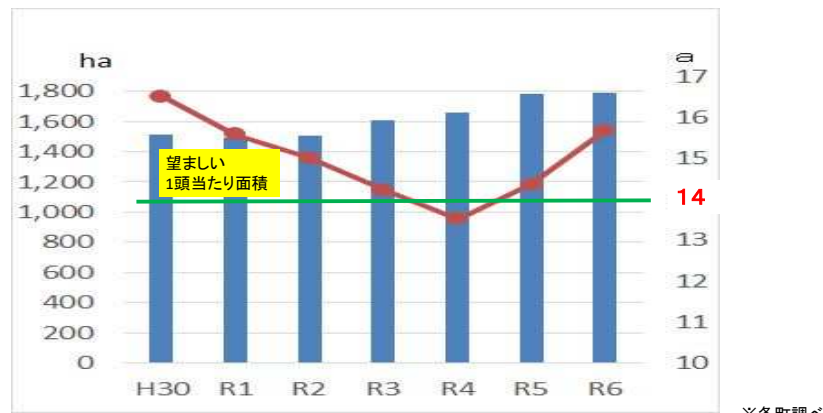


図 飼料作物作付面積と母牛1頭あたり作付面積推移

3

現状3 飼料作物別作付面積割合

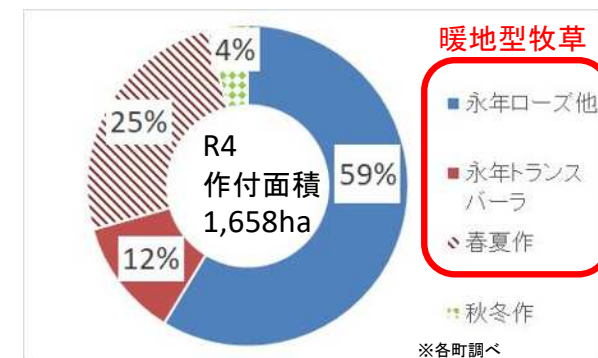


図 飼料作物別作付面積割合(R4年)

4

現状4 子牛価格の推移



図 子牛セリ平均価格推移(めす去勢税込)

5

現状5 牧乾草の輸入価格の推移

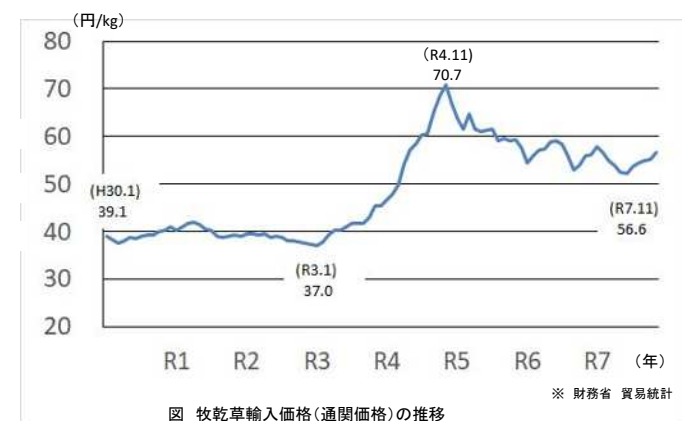


図 牧乾草輸入価格(通関価格)の推移

6

現状6 子牛1頭あたりの収益性(去勢)

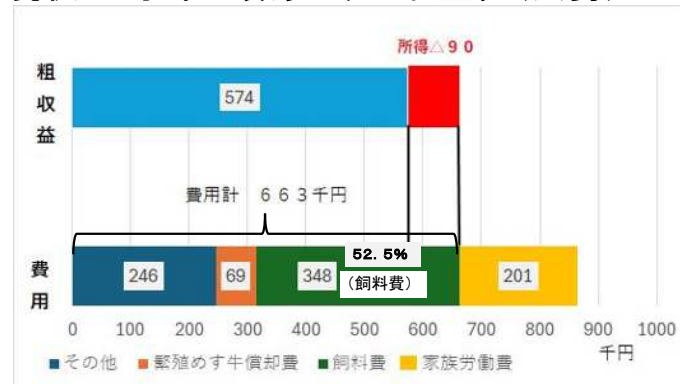


図 子牛1頭あたりの収益性(去勢)

農林水産省 令和5年度「農業経営統計調査(生産費調査)」

7

肉用牛経営の課題・目標

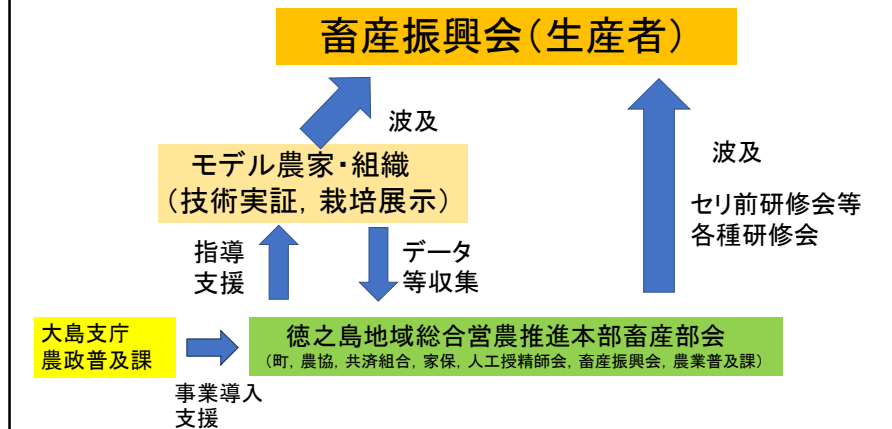
- (1) 自給粗飼料の増産 → 経営安定
- (2) ハカマの粗飼料利用 → 飼料コスト低減
- (3) 繁殖成績の向上 → 子牛増産
- (4) 子牛の商品性向上 → 販売単価アップ

↓

経営基盤・産地基盤強化

8

普及指導活動の推進体制



9

活動内容 ハカマロールサイレージ生産実証(R4)



ハカマロールの展示・評価会(R4)

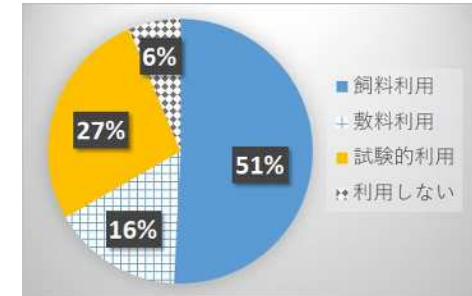


図 ハカマロール需要調査結果(回答数63人)

ハカマロール給与実証活動へ

10

活動内容 ハカマロールサイレージ給与実証(R5)

1 実証内容

(1) 給与実証

期 間 42日間

調査頭数 34頭(1戸)

(2) 栄養度調査等



表 ハカマロール及びローズロール給与量に対する残滓量と摂取量

給与飼料	給与量 (kg)	残滓率 (%)	摂取量/頭 (kg)
ハカマロール	394.5	14.7	9.7
ローズロール	427.0	1.1	12.4

表 栄養度と胸囲の変化

	調査前	調査後
栄養度	5.8	5.7
胸囲(cm)	188.3	187.4

品質改善で粗飼料利用は可能

11

活動内容 ハカマロールサイレージ給与実証(R5)

前提条件

飼料	形状	価格(税込)	重量	単価(円/kg)	備考
ハカマロールサイレージ	90cm	5,000円	196.4kg	25.5円	実証調査平均
輸入乾草オーツヘイ	22kg	2,800円		127.3円	農協聞き取り
繁殖用配合飼料	1t	90,970円		90.97円	農家聞き取り

輸入乾草給与(1頭当)			ハカマロール給与(1頭当)		
給与量	輸入乾草 (オーツ)	6kg	給与量	ハカマ ロール	9kg
	繁殖配合	1kg		繁殖配合	2.2kg
充足率	乾物	101%	充足率	乾物	108%
	CP	103%		CP	103%
	TDN	111%		TDN	111%
コスト	855円		コスト	430円	

コスト低減
1日1頭当り
425円

12

活動内容 ハカマロールサイレージ給与実証(R5)

～ハーベスタでハカマを集めるダクトの改造(国事業の活用)

ハカマの集草作業は、土の混入リスクを拡大



ハーベスタのダクトを改造し、ハーベスターでハカマを集草

土混入リスクの軽減



畝2列目は2列目にハカマを落とす。
畝3列目は2列目にハカマを重ねて落とす。

13

活動内容 ハカマロールサイレージ給与実証(R5)



	分析 点数	水分 (%)	pH	乳酸 (%)	酪酸 (%)	Vスコア
乳酸菌 添加	2	47.6	3.89	1.58	0.01	98.0
糖蜜 添加	6	50.2	4.53	0.54	1.28	68.1
無添加	4	48.0	4.66	0.39	1.87	61.3

ロール調製時に乳酸菌や糖蜜希釈水を噴霧添加。

乳酸菌添加で、サイレージ発酵品質向上

14

活動内容 ハカマロール給与実証(R5)

アンケート調査の実施
対象: 16戸

令和5年度産ハカマロール
260個を16戸の農家で給与



15

活動内容 ハカマロール給与実証(R5)

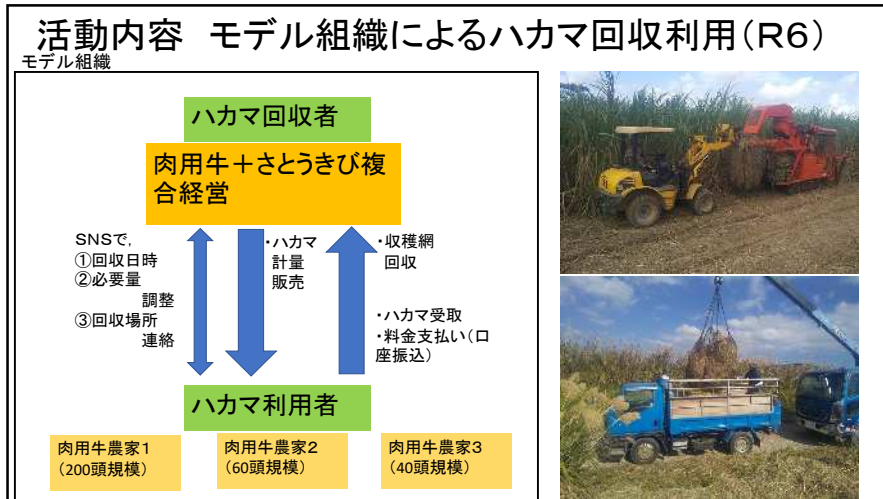
(1) 牛の嗜好, 農家の評価にバラツキあり

(2) 発酵期間が必要→給与時期が制限



エコハカマ(きび収穫機より直接回収し、給与するハカマ)の利用へ

16



17

活動内容 モデル組織での回収利用の特徴

- (1) 収穫機械から直接回収
- (2) 利用者は現地受け取り、収穫網を回収
- (3) 利用者はその日に給与
- (4) 利用者との連絡は、SNS利用
- (5) 粗飼料として販売

料金 ハカマ1kg当たり20円(税込)

18



19

活動内容 モデル組織の実績(その他の意見)

- (1) 冬期は貯蔵飼料で賄ってきたが、週1回供給されることで、余裕ができた。
- (2) 緑の葉が混ざっており、βカロチンの補給になった。牛は緑の葉から食べるように採食した。
- (3) 除草剂等薬剤の利用について、牛への給与が少し心配。

20

活動内容 モデル組織のハカマ調達コスト

頭数規模 200頭

項目	エコハカマ	島内産ロール	単位
購入量	2,000	7 kg, 個	
1頭あたり	10	kg	
単価	20	8,000 円	
購入金額	40,000	56,000 円	
差		16,000 円	

200頭規模で島内産ロールより16千円安く調達、
1頭当たり80円/日のコスト削減

冬期の粗飼料不足を解消し、同時にコスト低減を図ることが可能！

21

成果の波及(1) 研修会・実演会の開催



研修会



ハカマ回収利用実演会

22

成果の波及(2) パンフレットの作成配布



23

普及活動成果

項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ハカマ回収組織数	1	2	(4)
ハカマ利用農家数(戸)	16	7	(10)
ハカマ回収面積(ha)	11.1	6.6	(2.7)
きび収穫面積に対する割合(%)	0.35 (3,155ha)	0.21 (3,143ha)	

※ 農業普及課 聞き取り

24

今後の課題

(1)回収者・利用者の意識改善

回収者:ハカマは粗飼料として販売できる。

利用者:ハカマに対する認識

(2)耕畜連携の推進

畜産:良質堆肥の生産

さとうきび:廃耕畑の利用

島内の未利用資源の活用で,
安定した畜産経営の実現を